

JOC 第14回通常総会 開催報告

JOCは、5月27日（金）午前10時より東京都台東区の東京文化会館に於いて第14回通常総会を開催した。

例年に倣いJOINとの同日開催となった総会は、冒頭に奥村純市 JOC 会長の挨拶、続いて農林水産省 消費・安全局 動物衛生課 国内防疫調整官 伏見啓二氏の来賓挨拶があり、その後、議長に紺野耕氏（アニマルインターカレッジ学校長、JOC 副会

長）を選出し、審議に入った。上程された議案全てが原案通り承認され、可決された。

今回は任期満了に伴う役員改選もあって、役員改選後に開催された第38回理事会において役職人事が審議され、以下の結果となった。

- 【議案】 第1号議案 平成22年度事業報告について
第2号議案 平成22年度決算報告について
第3号議案 平成23年度事業計画（案）について
第4号議案 平成23年度予算（案）について
第5号議案 会則の一部改正（案）について
第6号議案 任期満了に伴う役員改選について

【役員新体制】

| | |
|-------|--|
| 会 長 | 奥村純市（名古屋大学名誉教授） |
| 副 会 長 | 紺野 耕（アニマルインターカレッジ学校長、 日本獣医生命科学大学名誉教授） |
| 副 会 長 | 山口章裕（メルクス㈱執行役員海外戦略室長） |
| 常務理事 | 児玉 洋（大阪府立大学大学院教授） |
| 常務理事 | 小久保謙（㈱オーステックジャパン代表取締役、JOIN 理事長） |
| 理 事 | 竹原一明（東京農工大学大学院教授） |
| 理 事 | 熊谷達昭（ロック化学製品㈱取締役） |
| 理 事 | 川口達男（かとり Ostrich 伊豆代表、JOIN 副理事長） |
| 監 事 | 三浦嘉徳（アウストブリッジ代表） |
| 監 事 | 千田正成（㈱センショー代表取締役） |

……………JOC第14回通常総会 会長挨拶

日本オーストリッチ協議会会長 奥村純市

皆さんお早う御座います。本日は平成23年度の日本オーストリッチ協議会の総会を開催しましたところ、全国各地より多数の会員にお集まり頂き、誠に有り難う御座いました。厚く御礼申し上げます。先ずもって本年の東日本大震災で御被害を受けられました方々に心からのお見舞いを申し上げます共に早い復旧を願っています。またご来賓の皆様にはご多用の中を日本オーストリッチ協議会総会にご出席いただきまして誠に有り難うございます。殊に、農林水産省消費・安全局動物衛生課国内防疫調整官の伏見啓二様におかれましては国会開催中の大変お忙しい中ご出席頂き誠にありがたく存じます。

さて、本日は昨年度の事業の総括と、本年度の事業の見通しをつける総会です。昨年度の大きな話題は鳥インフルエンザの発生でした。幸いにもオーストリッチ関係での発生はありませんでしたが、今後とも防疫には大いに力を入れて、病気発生が起きないように常に心がけていきたいと思っています。事業活動ではJOINが行っています「ダチョウ安定生産体制構築推進事業」に参加して各地で農場実態の調査と飼育技術の指導を行い、大きな成果を上げました。訪問した農場の全てで、孵化率、育成率、成長率、産卵率などの生産性の指標向上が認められ、本年度からは成鳥ならば10ヶ月齢で体重100kg を目標とし、産卵ならば雌1羽で年間50個の産卵を目



標とする初夢を描いていました。これまでのJOCの飼育技術指導は、2000年頃までに世界で発表された研究論文を根拠に行っておりましたが、2000年以降世界がどのように進んでいるのかについては研究論文発表が殆どないので、どこかに研究はあるだろうとあの手この手で調査しましたところ、2000年以降のオーストリッチ畜産の研究は殆どがインターネット発表で行われて進んでいることが判明し、しかもその指導者は世界オーストリッチ協会(WOA)会長のFiona Benson氏のグループが、世界のオーストリッチ畜産の成績トップ25%以内を上げている農場を中心に飼育技術を磨き、素晴らしく変身脱皮したとも言える新しいオーストリッチの畜産目標を掲げて行っている詳細を知り、新しいオーストリッチ畜産の時代が到来したことを確信し、これを日本の皆さんにJOC Journalを中心にお知らせして、日本での新しいオーストリッチ畜産の確立を目指したいと思っています。

新しいオーストリッチ畜産の目標は素晴らしいものですのでその一部を紹介して見ましょう。日本でも使用しているオーストホーン出身のオーストリッチを栄養学、飼料管理学、農場管理学、遺伝学を中心にしてブリーダーの栄養状態・ボディコンディションを改善しますと、この改善には2年かかるそうですが、産卵期間はほぼ年間となり、性成熟はこれまでのメス3歳、オス4歳が共に1年早く短縮され、その成績は5歳のメスブリーダーで年間産卵数は65個以上で、これを孵化して1歳まで育て屠畜できる数は40羽以上(育成率90%以上)、肉生産量で1,600kg以上です。10歳のメスブリーダーの成績はもっと素晴らしく、年間産卵数は80個以上で、これを孵化して1歳まで育ち屠畜できる数は65羽以上(育成率95%以上)、肉生産量で3,250kg以上です。これらがどのようにして達成出来るかという点、特に受精率、孵化率、ヒナ育成率、成長率などの発展はブリーダーの栄養状態を2年間の長期に亘って改善して得られて来ています。3ヶ月間ぐらいの飼養試験では成績に差異が認められていません。もう一つ肉生産の目標を紹介しましょう。5歳のメスブリーダーが産む卵からのヒナは280日齢で体重115kg以上、飼料要求率3.7、10歳のメスブリーダーが産む卵からのヒナは210日齢で体重115kg以上、飼料要求率2.17とまさにブロイラー並みの効率です。これらの効率を世間が知ると、新しいオーストリッチ産業を目指す新しい参加者も出てくるのではないかと思います。私はこれら新しいオーストリッチ畜産の飼育法は、これまでどおりスターター飼料には専用飼料を用いること、自家配合には必ずJOCのビタミン・ミネラルプレミックスを入れること、およびセンイ飼料は同じ原料を出来るだけ長く使用すること、の飼育基盤が出来た所から、新しい飼育方法にチャレンジするのが事を進める順序であることを表明して、皆さんのご理解を頂きたいと思っています。

本日の総会では、本音で活発に御議論頂いて、より良き日本オーストリッチ協議会にしていきたいと思っておりますので、何卒宜しくお願いして会長挨拶とさせていただきます。

.....JOC 第14回通常総会 来賓挨拶.....

農林水産省 消費・安全局 動物衛生課
伏見啓二 国内防疫調整官

ただ今、ご紹介に預りました動物衛生課の伏見でございます。本日は、日本オーストリッチ協議会第14回通常総会にお招きいただきまして、誠に有難うございます。

私どもの動物衛生課では、家畜伝染病予防法を所管しておりまして、その中に皆様が関係し

ておりますダチョウも対象となっております。貴会が発行しておられます JOC JOURNAL という機関誌を毎号お届けいただき読ませていただいておりますが、最新号の 78 号の最終ページに 4 月に家伝法の改正があったこと、そのことがインフォメーションされ、会員の方々にしっかりと知らしめていただいておりますことは、誠にありがたく思っております。



では、一体私どもが何をやっているかと申しますと、法律が改正されましたので、それに魂を入れるために今飼養衛生管理だとか、防疫指針の見直しを行っています。この法律は、公布されたからといって直ぐに施行というのではなくて、段階的な施行でございます。そして、今申し上げた飼養衛生管理基準では、今現在鶏をはじめダチョウを含む鳥類、いわゆる家きん類には適用されておられません。今回は昨年宮崎県で発生した口蹄疫がきっかけとなつての法改正になったわけですけれども、その議論の中でもやはり飼養衛生管理基準は家きん類にも適用すべきということで検討を重ねて参りました。

昨年 11 月から 3 月にかけて高病原性鳥インフルエンザが発生いたしました。幸いにもという言葉は適切ではないかもしれませんが、ダチョウには被害が及ばなかったわけですが、ただこの発生の原因は、結論が出たわけでもなく、結論を出すことも出来ません。少なくとも野鳥が何らかの形で関与しているのではないかと考えられているわけです。そうしますと、これから飼養衛生管理基準を決めていくにあたって、最低限守っていただかなければいけない衛生管理についてお示しすることになります。ただ我々が机上で考えたことをお示しするのではなく、現場の声も十分に聞いたうえで 10 月に向けて整備を進めていきます。その途中段階で、案が出来てきておりますので、都道府県を通じて、或いは貴会等の団体を通じて、意見を聞かせていただきたいと思っております。

一つだけお願いしたいことは、いきなり消毒をしるとか、ネットを張れとか、またそれは出来ないというようなやりとりではなく、消毒は通常にやって当たり前で、やらなければならないことでもあります。是非そのことをご理解いただいて、それは出来ないではなくて、こういうことならば出来るので一律には法に書かないで欲しいとか、或いは、ネットに関しては広い運動場にまで防鳥ネットを張れというのには無理があるというご意見を聞かせていただきたいと思っております。以前よりダチョウ産業に長い間お付き合いをさせていただいております私には、実態にそぐわないものであるか否かということは認識しておりますが、ではそのままが良いのかということではなく、せめてダチョウが休む場所等には最低限ネットを張っていただくとか、それなりに野鳥の侵入を防止する必要があるかと思っております。ネットがクローズアップされていますけれど、要するに出来るだけ野鳥の侵入を防止するところを心がけていただきたいと思っております。実際には、皆様はプロでございますので、我々が書いたものに対してこれでは実効性に伴わない点があれば、我々としては十分にお聞きする耳を持っておりますので、お教えいただければと思います。

高病原性鳥インフルエンザの関係では、9 県で 24 事例発生しましたが、発生するシーズンはある、シーズンはある、という専門家の先生方にも意見が分かれています。私ども

が考えているのは、シーズンにかかわらず常日頃からきちっと予防措置をとってれば、かなりの確立で防御できるのではないかと考えていますので、それについても今後工夫をしていきたいと考えております。

家伝法の改正では、貴会をはじめいろんな畜種に関わる畜産関係者の方々の注目を浴びておりますので、我々と是非とも引続き協力をしながら取組んでいただけるようお願いいたします。そして、是非我々と一緒になって病気の発生を防いで、生産性の向上を図ろうという姿勢で協力をいただきたいということをお願いしたいと思っております。

消費・安全局は、生産振興という面で非常に冷たいのではないかと話があるんですが、冷たいのではなくて、家伝法の目的の中には家畜の病気の発生を防ぎ、まん延の防止を行った上で畜産の振興を図るといことが示されておりますので、今回の改正でも決してその点はばれておりません。是非とも一緒になって取組んでいただきたいと思っております。

これから、オーストリッチ産業は伸びていくものだと思っておりますので、貴会のこれからの益々の発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

.....

JOIN
第 10 回通常総会
開催報告

平成 23 年 5 月 27 日 (金) 午後 1 時 30 分から東京文化会館 (東京都台東区) に於いて、JOIN 第 10 回通常総会が開催された。

総会に先立ち、小久保謙理事長の開会挨拶に続いて、来賓の農林水産省生産局畜産部 畜産振興課 課長補佐 谷口康子氏並びに同課 小動物係 郡司裕太氏、JOC 奥村純市会長、JOC 紺野耕副会長の紹介と挨拶があり、総会議事に入り、上程された議案全てが原案通り可決承認された。

【議案】

- 第 1 号議案 平成 22 年度事業報告及び決算関係書類の承認について
- 第 2 号議案 平成 23 年度事業計画及び収支予算案について
- 第 3 号議案 借入金残高の最高限度額決定について
- 第 4 号議案 役員報酬の決定について

…JOIN 第 10 回通常総会 理事長挨拶…

日本オーストリッチ事業協同組合 理事長 小久保謙

皆さん今日は。本日は平成 23 年度日本オーストリッチ事業協同組合の総会に、皆様御多用にもかかわらず多くの方々に御集りいただきまして、誠にありがとうございます。心から厚く御礼申し上げます。また 3 月の東日本大震災で被害を受けられた方々には心からお見舞い申し上げます。私達の身近では福島県双葉町で牧場を営んでおられたシュトラウスの富澤様が震災による大きな被害を受けられた上に、福島原発の事故で避難を余儀なくされ、大変な御苦労の中におられます。心からお見舞い申し上げるとともに、1 日も早い復興をお祈り申し上げます。

また御来賓の皆様には大変御多用の中本総会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。殊に農林水産省生産局畜産部畜産振興課課長補佐 谷口康子様並びに郡司裕太様におかれましては、国会開催中の大変お忙しい中を御出席いただきまして、本当にありがとうございます。本総会では、昨年度の事業報告をさせていただくとともに、新年度の事業計画についての御審議をいただければと思います。

平成 22 年度は中央競馬会の畜産振興事業より助成をいただいた「ダチョウ安定生産体制構築事業」の最終年度でありましたが、この事業での 3 年間でダチョウ産業にとっては大きな成果を上げることができました。全国各地の牧場を訪問させていただき、その現状や課題、今後の展望などたくさんのお話し合いの中で、解決策の見出せた事、今後の課題として提示された事、さらに当組合の役割など、産業の生産体制を構築するに当たり、多くの示唆をいただきました。新年度におきましては、この成果を踏まえてさらに前進したいと心を新たにしております。また JOC 会長の奥村先生より、世界オーストリッチ協議会会長 Fiona Benson 氏らの開発したオーストリッチを畜産動物、生産動物として十分な生産飼料を給与すると素晴らしい生産能力が発揮されるという情報が紹介されました。当組合としてこのような新しい飼育技術を取り入れ、さらにオーストリッチの生産性が上がり、組合員の皆様の成果に繋がるように、さらに JOC との連携を深め、努力をしてみたいと思います。今後とも皆様のさらなる御協力をお願いして、御挨拶とさせていただきます。

...JOIN 第 10 回通常総会 来賓挨拶.....

農林水産省生産局畜産部
畜産振興課 谷口康子課長補佐

日本オーストリッチ事業協同組合第 10 回通常総会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本日お集まりの皆様方におかれましては、平素から畜産行政の推進に多大なご協力をいただいておりますこと、厚く御礼申し上げます。



貴組合は、平成 13 年の設立以来、日本オーストリッチ協議会とともに、我が国のダチョウ産業の中核団体としてダチョウ産業の発展に多大な貢献をされてこられており、深く敬意を表する次第であります。ダチョウ産業は、国内の未利用資源を活用した飼育が可能であると同時に、新たな地域資源として、地域の特性に応じた農業を推進することで、農村経済の活性化にも繋がる魅力のある産業であると考えております。

しかしながら、現状では、産業としてはまだまだ発展途上であると思われまます。その背景の一つとして、飼育技術の問題があると考えられるところです。このような中、貴組合におかれましては、日本中央競馬会からの支援により、飼養者の生産実態について調査・分析を行い、現場での技術水準や生産状況を把握されて、これらに応じたマニュアルの作成・配布やセミナー開催等による技術指導を行ってこられました。今後は、より安定的な生産のために、飼養者の連携・組織化の推進や生産技術の普及を図る必要があると考えられます。23 年度からの 3 年間につきましても、日本中央競馬会の事業に内定されていると伺っております。これらの事業の活用により、技術の向上や生産の効率化が図られ、ダチョウ産業が益々発展していきますことを願っております。

最後となりましたが、貴組合の益々のご発展と、本日ご出席の皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。